

VART 2018

12月号 (発行回数、発行月ともに不定期)

09
Vol.

編集・発行：バート・ジャパン

FREE

長野県上田市でワイン葡萄を栽培しながら画家として活動している長谷川真次のフリーペーパー。葡萄畑の様子や生育状況、油彩を中心としたアート作品、そして田舎暮らしや地元ネタなど、写真、アート、エッセイなどを織り交ぜながら、ゆるゆると発信していきます。

※VARTは、フランス語でワイン=VinのイニシャルWと、芸術=Artを組み合わせせた表現です。
※バート・ジャパンは、画家・長谷川真次がひとり運営しているワインショップです。



今号の1枚。

真田ヴィンヤード (2018年12月24日撮影)

農民ライフは、ワインとともに。

バタバタバタ。「あれもやらなきゃ、これもやらなきゃ」と右往左往していたら、いつの間にか12月下旬。結局、このフリーペーパーも今年は2回しか発行できませんでした。しかも年末も押し迫って。



さて、7月にはバートとして2度目のワインをリリースすることができました。今回は念願の白ワインも加わり、メルロの樽熟成タイプとあわせラインナップが3つとなり、ようやくカタチになってきたかも。ご購入いただきました皆様、この場をお借りし改めて感謝申し上げます。

人の手って、有難いもの。

秋は収穫シーズンです。ワイン用ぶどうは、できるだけ長く樹にぶら下げて養分をたっぷり実につめてから収穫したいのですが、酷暑の今夏は酸の減少が早く、昨年より3週間以上早く収穫せざるを得ませんでした。そこで焦ったのが

「人手が足りるかな？」という点。必死に連絡していたら、ビックリするほど集まっていただけでした。有難や、人の気持ちって。



↑9月12日
白品種の収穫



9月22・23日
メルロの収穫

少しずつ、深みにはまっている。ワインの販売をするようになって、これまでの仕事と真逆なのが、人と接する機会が増えたこと。

12月2日は京都へ。以前より懇意にしていたら、京都のワインショップ「グルグル」さんが企画したイベントに、生産者として参加したのです。畑でひとり黙々と働くのは大好き。でも、小さなバルでワインの好きな方々にサーブしながら会話を交わすのもいいですね。貴重な経験でした。

だんだん深みにはまってきている。やめられない。良きかな、ワインのある農民ライフ。



思いのほか楽しめました!

Wine

そろそろ次のステップへ。個展の醍醐味。

駆け出しの新人まるだしで実績のない作家にとっては、立派な美術館や歴史ある美術団体は明確な目標・スケジュールが生まれるため、継続的な創作活動を支えるモチベーションになるのは確かだ。

ただ、どんどん創作意欲が増してきて、自らの道を深掘りしたい欲求に駆られるようになると、それらの存在は少々困ることがある。

特に、並行して個展やグループ展をいくつかこなしていくと、「自分が本当にやりたいことは何か？」

「自分にあっている場所がどこか？」が、少しずつ分かってくるため、制作にかけるエネルギーをどの方向に放出するかを変更するのはごく自然な流れではないかと思うようになった。

来年は作家活動を始めて5年目を迎える。そろそろ次のステップに進みたいと考えている。自分で言うのは少々面はゆいが「機は熟した」か。節目の年かも。

これまで3回の個展を開催してきた。1度目は、何もかもよく分からないまま勢いで始めただけ。それでも、その刺激はやはり忘れることができず、回を重ねる毎に「団体展より個展だ」との想いが強まる。個展でしか味わえない醍醐味

があるためだ。特に今年、銀座のギャラリーQで行った個展では、色々考えさせられた。ギャラリー関係者やアート業界の方々の話も刺激になる。

美術団体には、ならではの体験や新しい友人知人との縁が生まれる良さがあるものの、自分を高めるには限界があると思われる。精神の自由を制限される危険性も孕む。芸術活動は、そこが一般社会とは異なるのかもしれない。

「個々孤」。作品の完成度を評価するのは、誰かではなく、自分だから。



2018個展／2018年11月5日～10日／東京・銀座のギャラリーQにて

予想以上に忙しかった二年を振り返ってみた。

いちばんの要因は、自治会活動。

前号でも掲載したように、今年地域の公民館の責任者になったため様々なイベントに振り回されっぱなしで、頭も身体も落ち着かないまま1年が過ぎていった感じ。まいったなあ、というのが本音かな。

それでも「運動会」の時は、50年前の小学生時代にタイムスリップしたような気分になり、「なんか、のどかだなあ」と、ちよつとほっこり。競技種目の各得点で地域ごとに順位がつくため、参加者も応援に来た方々も熱が入り、「地域対抗リレー」でピークを迎えるあたりは、懐かしさいっぱいでした。



地域対抗の形式で行われる運動会

その他にもソフトボール大会やトレッキング、ママさんバレー的なもの、文化祭などなど、住民が少ない上に中高年だらけなので人集めもひと苦労だったけど、なんとか無事に終えることができました。

都会の人が田舎暮らしをすると「人間関係の濃さ」がうつつとうしいと

はよく聞く。自分の場合、横浜にいた頃は年がら年中仕事ばかりで家に居ないため隣近所の人との付き合いが全く無かったので、今の方が「住んでいる」感じがする。それに、何かが洗い流されるような感覚を得られたのも確か。入ってしまえばまあ、何とかなるものです。いまや胸を張って言えます。

「岩清水は私の地元です」と。**振り返るより、進む方が好きだ。**アート関連はともかく、今年はずいぶん交流会やイベント、地域での交流など、人と会う機会がたくさんあった。経営していた法人が創業30周年を迎えたのを節目に解散し個人事業とした。思いがけず猫ちゃんという家族ができたのもつかの間、すぐに死んじゃったことも。

平成も間もなく終了。個人的にも波瀾万丈だったけど、後で「いい時代だったなあ」と言えるようにできるのは、結局は今後の自分次第ですね。



「ヴィニ」。たった3ヶ月の相棒でした。

Life